

【川島高之 主な講演概要】

《イクボス（管理職向け）》

- イクボスの定義 ⇒右図
- イクボスの 10 か条（抜粋）
 - ② 子育てなど時間制約のある社員にも、活躍の場を与えていること
 - ⑤ 転勤など私生活に大きく影響する部下の人事に、最大限の配慮をしていること
 - ⑦ 会議や書類の削減、意思決定の迅速化を進めていること
- 家事・育児・介護など私生活の時間を、全ての社員（部下）が取れるようにしながらも、組織の業績を出し続けていく。そのためには、（主に男性）管理職の意識を変えることが必要。⇒イクボスが求められている理由
- イクボスになるメリットは、「組織の業績と部下の笑顔が共にアップ」。
- イクボスになるヒケツは、部下のやる気と能力とチーム力を向上させるために、部下の私生活を知ること、子育てだけを優遇しないことなど。

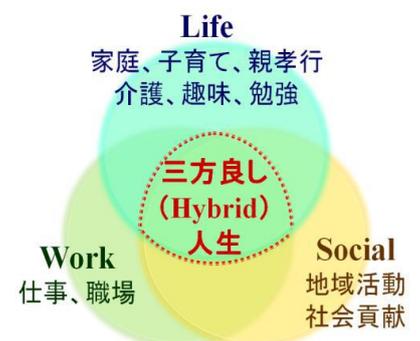


《子ども・若者向け》

- 小学生～大学生まで
 - 「自分のチカラを信じよう」
 - 「無いものを嘆くな、あるものを活かせ」
 - 「好きなことを好きなだけやっていい」
 - 「短所克服より、長所（得意）を伸ばそう」
 - 「好きなこと x 得意なこと＝仕事」
 - 「失敗 OK、失敗の数だけ成功がある」
 - 「無理して夢を描かなくてもいい」
- 高校生～大学生
 - 「就活は、就“社”ではなく就“職”を」
 - 「就職したら、Work Life Social を」
 - 「プロフェッショナルな仕事人になるには」
 - 「自分探しより、まずは目の前のことを」
 - 「理論より実践を、理屈より行動を」
 - 「MBA より PTA、MBA より NPO」
 - 「権利主張の前に、責務を果たそう」

《ワーク・ライフ・ソーシャル》

人生一回きりだから、男性も女性も、仕事（Work）、私生活（Life）、社会活動（Social）の3つ全てを、やっちゃおう。「支配される人生」や「真似事の生き方」ではなく、「自分の人生を会社に見立て、その社長になる」という意識を持とう。私生活や社会活動の経験は、仕事能力の向上にもつながる。WLB は、会社から与えられるものではなく、自ら奪いに行くもの。そのために、「権利主張の前に職責を果たす」意識、脱「指示待ち」、仕事の成果を高め労働時間を減らす「生産性向上」の努力が必須。



《親向けの「子どもの教育」講演》

●子ども教育の目的はただ一つ、
「子どもが自立した社会人になる」こと

●親が持ちたい4つの基軸

- ① 我が子のチカラを信じること
- ② 我が子から逃げずに向き合うこと
- ③ 社会のウィンドウになること
- ④ そして、笑っている親でいること

●子育て四訓

1. 乳児は、しっかり肌を離すな
2. 幼児は、肌を離せ、手を離すな
3. 少年は、手を離せ、目を離すな
4. 青年は、目を離せ、心を離すな

《コヂカラ（子どものチカラ）》

(*)子どものチカラ（コヂカラ）斬新な創造力、既成概念に捕われない発想、純粋な視点、素直、あり余るエネルギー、真っ直ぐなど、子どもだからこそそのチカラ

●子どものチカラ(*)を借りて、企業や地域などが実利を得る。

大人に役立つという過程を通じて、子どもは伸びていく。
一般的な職業体験との違いは、「実社会での本番」である
ということ。



●コヂカラ Project（子ども達が実現した事例）

- ・お米のシューアイスを開発し、HIROTA で過去最高の売上げ達成
- ・地元特産品を首都圏で販売、将来は商品開発も（コヂカラ地方創生）
- ・商店街の活性化を目的に、店を出し、イベントも開催
- ・農業体験時に感じたことを絵にし、それを米袋にしたお米を全国販売

《PTA（地域活動）のススメ》

●PTA に参画する 10 大メリット（抜粋）

- ① 知人・友人が増える
- ③ 居場所が増える
- ⑤ 先生方と親交を深められる
- ⑦ 学校に行ける
- ⑩ そして、ともかく楽しい

●参加したくなる、参加しやすくなる PTA

●PTA の 4 つの意義

- ① PTA は、教師のサポーター
- ② PTA が、時には親の代打
- ③ PTA で、地域が活性化
- ④ そして、地域 x 学校 x 家庭の潤滑油